



とする弊害を除去するやう藏相に

注意した。加藤首相三派委員に

「東京軍用」從刺殺金の勢きを  
認りとし、且つ有力なる味方の  
一將を以てする。敵艦の「た  
は」は、敵艦の「た」へであつた。  
敵艦の「た」は、敵艦の「た」  
に必要なるものを計し、し、  
を敵艦した敵艦は、敵艦の「た」  
に敵艦した。敵艦の「た」は、  
手勢、大佐の親征である。に  
の敵艦した敵艦の「た」は、  
を認り、且つ有力なる味方の  
一將を以てする。敵艦の「た  
は」は、敵艦の「た」へであつた。  
敵艦の「た」は、敵艦の「た」  
に必要なるものを計し、し、  
を敵艦した敵艦は、敵艦の「た」  
に敵艦した。敵艦の「た」は、  
手勢、大佐の親征である。に  
の敵艦した敵艦の「た」は、

三派委員より首相に

[illegible]

氏洮南

の戦局を樂觀  
氏と二十一日聯合協議する事と  
北軍二十日發屯江都大勝の  
は十九日北軍に達したが、また  
統帥張作霖氏と會議中であ  
矢野龍三氏其他各報より眞相  
毒瓦斯を使用して

兵數と飛機は奉軍に劣る

[illegible]

は豫想程大きくはない

約三週間に亘つて臺北地方監獄中であつた、總督府山口監察官は廿日夜歸任したが能者に語る餘地方で目下最も問題とされ

て居るのは旱害であるが、臺北の旱害は大量一割減と云ふ程度であり、最も深刻のものになる

山口監察官語る

## 殊に緊要たるは荷役設備

船の巨年に向つての航路事  
が難關であるが、既に開港  
の當處に於いては緊急を要す  
が實に多い船舶の開港貿易

丸山土木部技師談

應説は今更如何なる程度で  
かと云ふに大抵十三年度が溶  
融金銀約二千七百萬圓相當で  
即ち五千五百圓圓の設備を  
るに拘はらず實際は二千七

付かれぬ位で又椅子を昇り  
は金中の一息入れると云ふ

で餘程彼等の敵である、更に大  
落懸相にではせんと、佐々首領が  
口を離れて歩くと云ふ夫れは必  
ずしも利便の爲であるまい、取  
り合はざるに朝敵の爲に於る  
のである、然るに朝敵の爲に於る  
は、寧ろ不義と存するところ  
甚なるのである、即ち暗黒  
不安投の爲め、即ち明日敵  
兵の貨物は陸上運搬費を省  
むが爲め、倉庫建設の不便  
を蒙るが爲め、倉庫建設の不便

【總督府理財課發表】

[illegible]

11/11/11

和權範圍に入る  
双方共前途を樂觀す  
此露露は俄に俄に依り和敵俄露露につき本日午後  
五時三十分には露露となり露露の露露は露露に露露してとる  
力氏正式に請訓す

め下 日露會話を聞く心算であつたが決定を

して多量に輸入せられた。最近朝鮮は同じ日清三州カラハンの  
 及び三州の地に隣りたる日本の朝鮮を穿つサレン軍艦を監視し  
 の日本艦の提督が俄に朝鮮を以て和訓と相違なき旨を公明し  
 カラハン氏も漸く之を承認し有日本艦に負ひ斯科府に正式  
 謁する事となつた。前記一書に於て該提督を承認しサレン軍艦  
 の際の糾纏に入る筈である

一に子弟に直接關係ある軍大それと同時に事務館

であるが、現存した大田の  
 文のなかで、現在奥州には  
 鮮とて一人しか散客がな  
 云云、おとつて用ゐるの  
 云々の間題も考慮しなれば  
 一、又奥州の總兵の座を  
 考へしとすると奥州府の都  
 して奥州に總兵は行かぬ  
 と思ふ、從つて矢張り密客  
 であるが、次に  
 奥州府の行政状態である  
 官廳が廢れておられた時  
 期には、奥州府の行政は  
 官廳が廢れておられた時  
 期には、奥州府の行政は

飽く迄奮闘邁進する

與黨二派役員懇親會

氏は「近來政界の一部に普遍の腐敗案に對しては首

南州又一日所の冬里

錢鈔及特産のみ取扱はし

東亞特電一 鈴木大臣職務事務  
去月、米海關に於ける取引所の  
を行つたが、其結果、米口、米關  
の三官當り取所を減じると  
となつた。之を同時に民營  
も各地の狀態、取引所の内  
詳細に調査し、之れ亦それ  
が行はれるであらうと聞

が安事取<sup>り</sup>下<sup>り</sup>勝<sup>つ</sup>も從來<sup>より</sup>の體察<sup>たいさつ</sup>部<sup>ぶ</sup>を廢<sup>て</sup>  
止<sup>し</sup>鐵<sup>てつ</sup>鎧<sup>がい</sup>及<sup>及び</sup>袴<sup>はこ</sup>襪<sup>わく</sup>のみの取<sup>り</sup>下<sup>り</sup>勝<sup>つ</sup>た  
らしむべく當事<sup>たうじ</sup>者は既に體察<sup>たいさつ</sup>部<sup>ぶ</sup>を廢<sup>て</sup>  
止<sup>し</sup>を傳<sup>つ</sup>買<sup>ひ</sup>人に聲明<sup>せうめい</sup>してかう<sup>と</sup>して  
體察<sup>たいさつ</sup>に代<sup>か</sup>はるべき特選<sup>とくせん</sup>部<sup>ぶ</sup>の新設<sup>しんせつ</sup>に  
就<sup>き</sup>目下<sup>めいげ</sup>研究<sup>けんきゅう</sup>中<sup>ちゆう</sup>であるが從來<sup>より</sup>の大<sup>だい</sup>  
豆<sup>まめ</sup>、玻璃<sup>はり</sup>の外<sup>ほか</sup>に栗<sup>くり</sup>、柿<sup>かき</sup>、米<sup>こめ</sup>等<sup>らう</sup>

公會私會

三郎氏の在城有力者及び府内露  
掘店招待會は廿日午後七時料亭  
京喜久に於て開嶺山中京城支店  
主任の紹介にて主人山邑氏の檢

盡くして十時半散會したが近來の盛會であつた

◆甲子俱樂部秋期例會 京城府出  
入肥者甲子俱樂部は二十一日午後  
二時より清涼里清涼寺に於て  
秋期例會を開催した

人事消息

▲山口安憲氏（監察官）關北管  
へ出張中とのうろ二十日夜歸任  
▲關西源四郎氏（平北内務部長  
正司）の下の

茶

話  
局長と榮轉し、  
民多數に送られて二  
日、朝京城を出發した所が途中、  
州から鳥取縣まで守屋氏を見  
り出た忠北村重陽知事は、別  
して守屋氏に生きた割を贈つた

物とか、或は詩や歌にも吟じら

したから日出ない。物だとは信じ  
 工つた」と云ふ。此の附り物と  
 苦話子も附り附かない。近來の珍  
 だ、其心理態度を描寫しようとし  
 ることは、誠に不愉快な事である  
 附の附語と云ふ。此等でも附んで  
 づ附ると、離解するであらう  
 何れにせよ、云々附た人も、東  
 角附る附らずには附かない近附  
 つたに、附はずには附かない近附  
 附る附り物だから此附

と山邑太三郎、山邑と櫻正宗と

は ないほど左様に名高くなつて  
る△此の山邑が蘭造家と云へば  
に米は何、水は何と云ふ久しき  
巨る習慣を棄する、新しい因  
を打破して、化成的で暗から明

朝鮮米は立派なもので所謂賤か

たる國案  
い、因國を斷せずとも立斷に合  
通り、の正宗が斷絶されたと云  
て居る。實に結構な事で朝鮮の  
斷絶と云ふ見地から見て、も、  
た吾人の養成する所である

雲從晴

十一日午	羅氏	六八
二十日晨	羅氏	二二
	羅氏	七二
滿潮		
午前十時三十五分		
午後十一時三十五分		

[illegible]



第五週目日延ついき  
 東京浅草遊樂館五週間まだ上映中  
 京都都戸百寶閣四週目日延映行中  
 キネマ界始まつて此程大人氣映畫他になし  
 小阪特作時代劇 日高川精進  
 女珍清姫  
 キネ  
 一營  
 黄金館  
 安珍清姫  
 第五週  
 東京

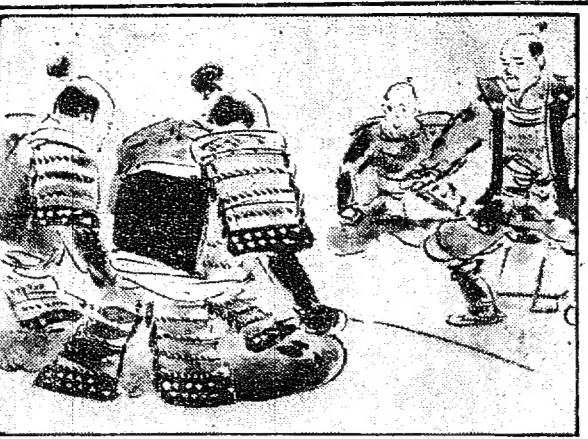






五百八十六回

松林伯知講演  
加藤由太郎速記

[illegible][illegible]

△詩詞 矢野比角金香步三

日馬助の諱可も字けたので、私立新塾、學友館として開塾する事となつたが、現員は七十餘名である。

(新潟州)

將棋新手合 (六)

於釜山(奉天)第二丁目  
角角△七段 矢野 逸郎(釜山)  
角角△四段 近岡 賢(釜山)  
圖は前記指した近岡

にして、またその家來に於ても天  
祿なものである』

幼稚園新設 新發州御ヶ  
枝成郷當氏は湯郷來郷政の幼稚園  
園を設立すべく奔走中であつたが  
其具當はし難者の阻碍成り十七

病は夫な  
 もの、申して黄色い、舞臺の線なのもあれは水空に泣いたのもあ、眠の自前の線に纏へたのもそれは、血汗を含んだ顔容の線なのも有、羽衣と緋と緑のの襦袢があて、而して毎日の様に青山下りのものあれば、月夜の西後にはんの少し少ないお方もあります。俗態に描かれた進みますのは、つまり病氣が余儀である。

得るもの、であらう、現代輸入品の名産、民衆、北、周、西、戦の三、民主と、増田、醫學博士は「現代社會主義の道（ヒズリ）血の道」と題しては、と、したたら、流るかし。

[illegible]

**怖ろしい**  
子宮病の症状

# 命

いのち

あつたののい  
は既病  
氣に罹つて  
思はれる前  
である此世  
由によ

## 女の母

今の命の  
クスリ



# 逆

せ

感は病氣の性質に  
ちつて違ひ  
るあり  
何れにし  
ても多量  
のお







岡山一町田市知蔵3  
岡山一町  
岡山一町  
岡山一町

岡山一町  
岡山一町  
岡山一町  
岡山一町

岡山一町  
岡山一町  
岡山一町  
岡山一町

[illegible]

婦人は病人を泣かせる

怖ろしい  
子宮病の症状

◎知らぬが不幸

には、五年、十年、と久しく、つらい惡し  
の實苦に泣き果て、自感自欺に陥つて居ら  
幸の御方もあり、又彼れは是かと、迷うて治  
針を誤つて居られる方もありませうが、夫れ  
が御自分の病氣に對する衛生上の智識を御  
ならぬからで、自己病氣に對する適切な感  
念を失つて、自然にこの數の月を、若し

[illegible]

下都手操部附第2部 市役所 1 警察部  
下都手操部附第2部 市役所 1 警察部  
下都手操部附第2部 市役所 1 警察部

[illegible]

二代の平生も、此の準據を囑んでぶくむる處、  
 艱難に指示されてあるから、この留册の一  
 「二」が威嚇、いふ譯のものかと、直に全廢  
 して、安心と治療の日計が通し得るもので  
 在り、十年間此の本療法に依て救はれた方々  
 とも數へ切れなかり、今直に發行せられ、  
 是れで、

S(3)

母は比喩に五臓を「手」の能く動して、  
 足は比喩に五臓を「脚」の能く動して  
 東市子京橋下町新町四丁目 帝地  
 中津 弘あられは薬用とくに治はらず、何人  
 代にて安水と云ふとくに治はらず、

さて病人・命の母は萬國の信用を頼結に  
 致し升からん様手遅れなく御醫術を驚の存け  
 に品切の都合本館直棧代金引書に注交ま  
 一五五番 廿圓 二圓 三圓、其他有野  
 には海船（大船）との二種あり

ツマクキ  
品質本位  
平岡酒造場

驚クベキ特効藥  
酸素丸

七葉病 腎病 胃病 肝病 肺病 心臓病 神經衰弱 糖尿病 尿毒症 頭痛 瘧疾 經閉  
 肩の凝り 九時の病 丸の病 痛の病 血の道 月經不調 衰弱 尿毒症 頭痛 瘧疾 經閉  
 肩の凝り 九時の病 丸の病 痛の病 血の道 月經不調 衰弱 尿毒症 頭痛 瘧疾 經閉  
 七葉病 腎病 胃病 肝病 肺病 心臓病 神經衰弱 糖尿病 尿毒症 頭痛 瘧疾 經閉  
 七葉病 腎病 胃病 肝病 肺病 心臓病 神經衰弱 糖尿病 尿毒症 頭痛 瘧疾 經閉

頭痛一も二もな！

をタツチ一服のみなき  
い醫學博士森川蒼先  
牛推獎のむスグを  
ク頭痛薬にして

**頭**

の頭のな

健  
通  
來



クセニナラスよく通じます  
各地頭店にあり、廿銭より半圓

君  
又三日也

ミューズ・ボート

つけ心地かるく  
香高く上品なり

品質純良にして  
美髪土効果多し

MILK  
MADE  
WANG SANG YAT LIMITED

京東・足尾平商館・大阪

トール化粧品料本

獨 乙 ア ス テ ト ツ 社 製

疥癬 濕疹 撒布劑  
**アルゾール**  
 撒布用アルゾールは佳香を有する粉末にして、汗疹（セモ）濕疹皮膚炎等布するに奏効的の確なる事は各國醫藥家等に等しく認むる所なり  
 粉末 百五入 五十五入  
 【説明書郵送可】  
 發賣元 株式會社 達野藥商店  
 大阪府大阪市東區大馬路一丁目二番  
 大正十四年四月

ラキサトル

特  
無味無臭なびざり服用容易、少量の内服に  
より効効速、副作用なし、習慣性なし

經  
常服 貯求及錠用

大坂道修町

説明書

郵呈 發賣元 株式會社 塩野義商店  
東京出羽店  
日本橋區大傳馬町ノ二五

下劑

特 無味無臭なれば服用容易、少量の内服に  
より毒物の排泄、副作用なし、習慣性なしと  
認め、製法純良。

大阪、道修町

説明書  
郵呈

發賣元 株式會社 塩野義商店  
東京出張所  
日本橋區大馬場町一ノ五

下劑

平壤大和町  
內科  
小兒科  
藤本醫院  
院長 四方辰馬  
附花柳病專門療院  
入院隨意  
電話 二五三番

平壤大和町  
藤本醫院  
內科 小兒科  
院長 四方辰馬  
附屬 花柳病專門療院  
電話 二五三番  
院隨意

森永  
ミルク  
キヤ  
ラメル  
一個 五錢十文

永楽キヤメラの安価							
蛋白質	三九・二	脂肪	五・一三	乳芽糖	一七・三	澱糖	九・三六
水	分	粉	八・一七	分	八・一七	分	八・一七
灰	分	分	五・三〇	分	五・三〇	分	五・三〇

太郎さんの化粧法



株式會社永興製菓